



# 四国の銘石 大島石物語

おおしまい  
ものがたり





四国の銘石  
おおしまいし  
大島石  
物語  
愛媛県今治

瀬戸内にかかる、広島と愛媛を結ぶ大小 10 本の橋の中でも最大規模の来島海峡大橋。その大橋の途中に浮かぶ面積約 41.89km<sup>2</sup> の島ではその昔、村上水軍の活躍の拠点でもありました。その大島で産出される硬質の銘石「大島石」。庵治、岡崎、真壁に続き、知る人ぞ知る隠れた銘石と言われる「大島石」は約 700 年という歴史をもち、その美しさを長年にわたって保ち続けることができる青御影石として、宝篋印塔やお墓をはじめ各種の建造物に利用されてきました。

もともとは、今治城の築城で腕をふるった石工の石屋治衛門が今治城の機密封じのための処刑を間一髪逃れ、大島で花崗岩の層を発見し発掘をはじめたのがはじまりとされているようです。その後、本格的に採掘が始まったのは明治初期頃とされていますが、詳細な記録は残っておらず、いまだ謎のベールに包まれています。昭和 30 年頃には墓石用の需要が急増し、最盛期の近年には大島内に大小約 60 もの丁場がありました。ピーク時をやや過ぎた現在でも二代目、三代目の若手後継者が情熱をもって大島石の採掘をおこない、良質の丁場を支えています。



今治城



明治頃の切り出し道具

# 守り続けられる大島の丁場。



明治初期の切り出し現場は危険を伴う大変な重労働でしたが、昭和 30 年頃の需要拡大にあわせて、搬出用の機械や採掘用の削岩機、ジェットバーナーなどの登場でその生産スタイルは大きく変化しました。現在でもジェットバーナーを中心にした切削機で、大島石に最もふさわしいやり方での切り出しをおこなっています。



# 過酷な条件に強い優れた特徴。



硬い

吸水性が低い

変色しにくい

風化に強い

均質な色目

大島石は石目、岩肌ともに大変美しいうえに、なによりも【風化しにくい】という特徴があります。硬いうえに吸水性が低いため、その風合いを長年にわたって維持し続けることが可能です。色目も均一でサビにも強い国産材なので墓石としては理想的な石といえるでしょう。また、塩分を含んだ海水にさらされる沿岸部の護岸工事にも重宝され、どんな過酷な条件にも耐えうる石です。大島石は日本に古くから存在し、大島石の建造物が今も現存するなど、その強さを歴史が証明しています。

## ◆水中でも長年耐える強さ



画像の石は、宮窪町の沖から昭和 58 年に引き揚げられた、船をつなぎ止めるための石です。通常、「繫船石」と呼ばれ、長年潮に洗われてきたものですが、ヒビ割れや変色も無く、大島石の強さを物語っています。

### <大島石>



比重 2.64

吸水率 0.20%

含水比 0.24%

使用用途：

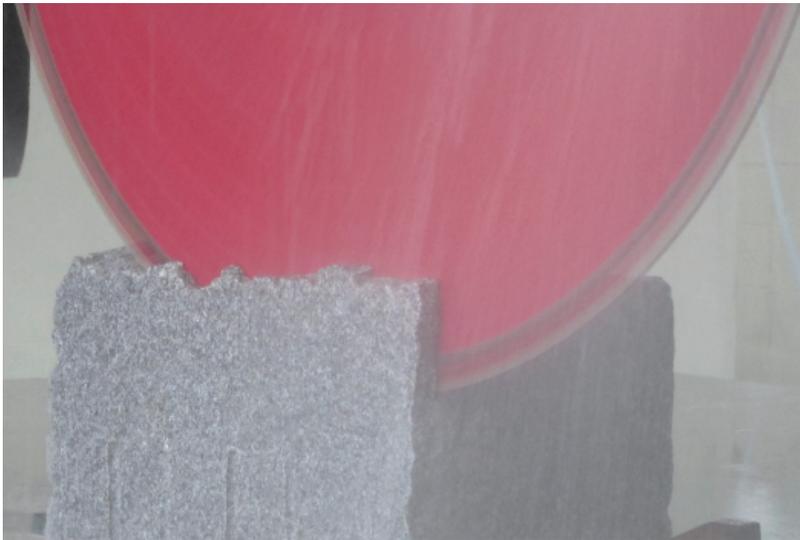
細目材…高級墓石

中・荒目材…庭園用品、建築土木等





# 大島石を知り尽くした現地加工。



## <ポイント>

産地の石は産地で加工し、最適な加工をおこなう。

産地状況を随時把握できるネットワークがある。



大島石の加工は、大島石を知り尽くした加工場で加工するのが最も適しています。大島石は硬度が高いため加工にはコツを要します。そのせいもあって、大島で修行した職人たちは他の地へ移ってもその手腕を発揮しているようです。

大島石の加工のコツを知っているのは、昔から大島石に携わってきた加工場です。大島石を見極め、石と対話することを続けてきた職人の想いは、現在にもしっかりと受け継がれています。それは、機械化・電子化が進んだ現在でも変わりありません。

## ◆大島石を知り尽くした加工場



上 / 最大 120 インチまでの切削加工が可能な加工場。ここでは硬さゆえ加工が難しい大島石のあらゆる加工ノウハウが蓄積されています。



# 丁場状況をネットワークで把握。



どの丁場でも、採れる石質は刻々と変化します。いまだこの丁場でどんな品質の石が採れているのかを把握するためには、丁場のネットワークが非常に重要になります。現在、大島の30余りある丁場うち、約半数の丁場と加工場がネットワーク化されており、産出される石の状態を随時把握しています。したがって、お客様の難儀なご要望、たとえば「微妙な色目を合わせたい」「現状で最高級の石がほしい」といったニーズにも即時対応が可能なのです。



「何年か前の製品の石目に合わせたい。」このようなご要望をいただくことがあります。丁場は年々産出される石は変化していますので、厳密に石目を合わせることは難しいのですが、丁場ネットワークの中で似た石目を探すことができます。私たちのネットワークには、丁場を常に巡回し現場状況の把握を担う者がおり、職人や責任者と信頼関係を築いています。また、必要によりお取引先を丁場へご案内することもあります。





# 大島石が支える数々の建造物。

## ◆大島石が使われている建造物



国会議事堂



赤坂離宮

[Railstation.net](http://www.railstation.net/)  
<http://www.railstation.net/>



道後温泉



愛媛県庁第一別館



ひめぎんホール (旧県民文化会館)

大島石は石目、岩肌ともに大変美しいうえに、なによりも【風化しにくい】という特徴があるため、その風合いを長年にわたって維持し続けることが可能です。色目も均一でサビにも強い国産材なので墓石として理想的な石なのです。また、どんな過酷な条件にも耐える石なので、大島石の建造物が今も現存するなど、その強さを歴史が証明しています。

## ◆全国への納入実績も多数

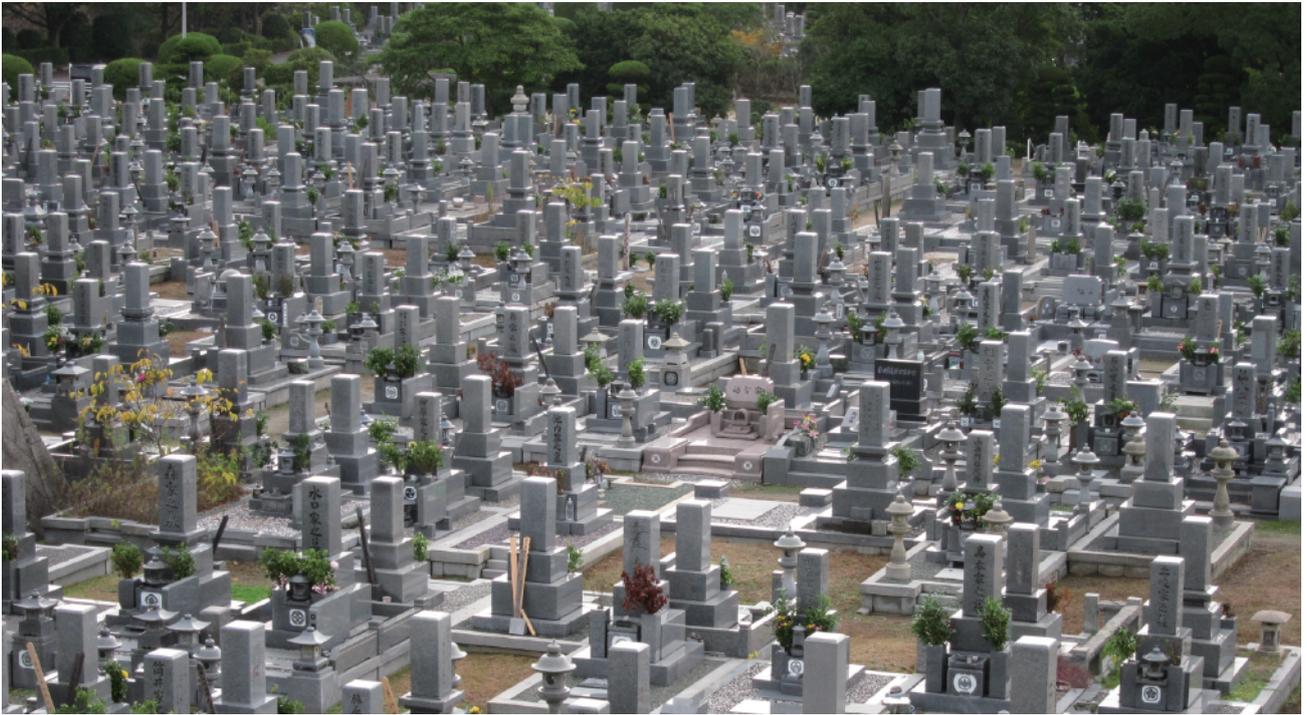
明治 6 年 皇居の火災改築時の基礎石  
 明治 27 年 旧呉海軍鎮守府  
 明治 28 年 奈良皇室博物館  
 明治 41 年 大阪心齋橋改築  
 明治 44 年 京都四条・七条橋改築  
 三井銀行大阪支店改築  
 大正 5 年 大阪新浪波橋改築  
 三井物産神戸支店建築  
 大正 7 年 日本海上保険神戸支店建築  
 大正 9 年 大阪図書館建築

(年代不明) 道後温泉建築  
 広島福屋百貨店建築  
 東京日本銀行建築  
 東京岩崎別邸建築  
 満州大連湾埠頭建設  
 出雲大社大島居  
 石鎚神社大島居  
 大阪電鉄敷石  
 大阪朝日・毎日新聞社建築  
 住友銀行建築

昭和 31 ~ 33 年 製紙用ローラー 22 本をソ連、ビルマ、フィリピン、スイスへ積出



## 大島石の墓石は9割超。(今治市大谷墓地にて)



今治地域では大島石を墓石に使うことは当然のことですが、今治市が運営する大谷墓地では大島石の使用率が優に90%を超えます。新古のものがありますが、どれもが素晴らしい色の風合いを保っております。古くから多くの方が墓石として認めていることから、大島石の優秀ぶりが伺えます。愛媛県ではお墓といえば大島石を使うことは常識といっても過言ではありませんが、産地に近い近畿、中国、関西でも大島石は銘石と知られています。

大島石は硬いうえに粘りもあるため、研磨した際の光沢が美しく、またその輝きが長く持続します。これが墓石の品格に繋がると好評です。大島石の墓石は目の美しい部分を厳選して使用するため色も揃いやすく、品質の高い建墓が可能です。大島石は建墓後も長年にわたって信頼できてトラブルもほとんど無いため、お墓に最もふさわしい石なのです。



# 海のロマン溢れる大島の歴史。

大島は愛媛県瀬戸内の海に浮かぶ面積 41.89km<sup>2</sup>、周囲約 50km の島です。本州四国連絡道路の 1 つ、しまなみ海道（西瀬戸自動車道）が通る島です。大島と今治の間には早い潮流が渦巻くことで有名な来島海峡があり古くから海の難所でした。その厳しい海流が潮を読む海運の技術を発達させ、水軍の活躍や造船技術の発達を生みしました。また、この急瀬で育った天然の鯛をはじめとした魚介類は身がよく締まり絶品と言われており、特に鯛をご飯と一緒に炊き込んだ〈鯛めし〉は鯛のダシがご飯に染みこみ、地元や観光客にも人気の郷土料理です。



鯛飯



来島海峡の急流

急流観潮船で観光できます 株式会社しまなみ TEL 0898-25-7338

## 大島近辺を拠点とした村上水軍

南北朝時代の昔、大島石の産地である大島をはじめとした瀬戸内海の制海権を握っていたのが村上水軍です。1588 年（天正 16 年）年に豊臣秀吉が海賊停止令を出すまでその勢力を保っていました。最も隆盛な頃には、西は山口の下関、東は香川の塩飽諸島とほぼ瀬戸内海全域を制海していたのですから驚きです。村上水軍は能島、来島、因島の「三島村上水軍」から成り、総大将である村上武吉は若い頃より禅を学んで来たようです。彼らの多くは曹洞宗や真言宗などを信仰するとともに、大山祇神社を氏神として仰いでいたようです。



大山祇神社は愛媛県今治市大三島町にある神社で、祭神は日本神話における女神、木花開耶姫（コノハナサクヤビメ）の父、大山積神です。

山・海・戦の神として歴代朝廷や武将から崇められ、伊藤博文や山本五十六らの参拝もあります。境内には昭和天皇の研究を展示した海事博物館もあります。



大山祇神社

## 海の城「今治城」と藤堂高虎



慶長 9 年（1604 年）に築城の名手、藤堂高虎によって建てられた城で、大島石も多く使われています。三重の堀に海水を引き入れた特徴のある造りになっていて、海から堀へ直接船で入ることができ、海上交通の要所今治らしく海を最大限に活用した特徴のある城でした。その後明治維新を迎え今治城は取り壊しとなりましたが、石垣と内堀が残りました。現在の天守閣は昭和 55 年（1980 年）に復元されたものです。



藤堂高虎

# 日本の景観に溶け込む大島石。



高級墓石



建造物



壁面・護岸などの工事



モニュメント



石像

ご用命、お問い合わせは

